

# はくぶつかん

HIRATSUKA CITY MUSEUM

VOL 5 NO 5 1980. 8. 1  
平塚市博物館 TNO 52



○ 8月の花

ヤブカラシ

庭の手入れをおこたると、いろいろなつる草がはびこり、手のつけられないほど庭木にからんでしまうことがあります。そんなつる草の代表格がヤブカラシです。ピンボウカズラの別名もあり、昔から好まれざる植物だったようです。

真夏に咲く花には、目立たない見かけによらず多くのチョウやハチが集まってきます。そのわけはヤブカラシが甘い蜜をたくさん出すことにあります。小さな花の上にしずくのようについた蜜を見つけたら、あなたも一口なめてみてください。

夏期特別展「街の生きものたち」

8月30日(土)まで

図録発売中 1冊500円

受付にてお求めください。

☆セミのぬけがらを届けてください

特別展の会場に大きな地図を展示します。この地図に平塚のセミのぬけがらをはりつけ、どの地区にどんな種類が多いか調べていきたいと思えます。ぬけがらを見つけた人は、見つけた場所と名前を書いたメモと一括にポリ袋に入れ、博物館の受付に届けてください。あなたの名前と一括に地図に展示します。

☆記念講演会

8月5日火午後2時～

講堂

「街の自然と私たち」

柴田敏隆氏(山階鳥類研究所資料室)

参加自由

## 8月の行事

### 夏休み期間中のプラネタリウム

#### 「はるかなる宇宙」

夏の夜空にひろがる星たちを、夕涼みの気分できがしてみましょ。そしてそんなひとときにはるかな宇宙に思いをはせ、私たちには計り知れない宇宙の深みをさぐっていきます。

団体で投影を観覧希望される方へ。

夏休み中、7月23日～8月30日までの水・木・土曜日の午前、10:00からの投影が団体専用ですのでご利用ください。

### ●自然観察入門講座

#### 「干潟の生物」

日：8月27～29日（3日間）

場所：27～28日 相模川河口の干潟

29日 博物館（まとめ）

干潟の泥の中にすむカニやゴカイ、それを餌にするチドリ・シギ・サギなどの水鳥について調べます。

申し込み：8月15日までに往復ハガキで、小学校5年以上。定員20名。

### ●石仏を調べよう

市内には多くの石仏があるが、昨年ひきついで道祖神と庚申塔について、所在地・年代・大きさなどを調べる。

一般投影	
水・木曜日	2時（1回）
土曜日	1時40分、3時
日曜日	10時30分、1時30分
団体投影	水・木・土曜日 10時

団体投影の時空席がある場合は入場できます。

観覧料 1人100円（団体70円）

所要時間 1回 45分

定員 128人

### ●夏休み自由研究相談会

理科（地質・生物・天文が中心）、社会（考古・歴史・民俗が中心）の自由研究について、進め方、まとめ方、標本の同定などの相談をお受けします。参加は自由です。

### ●星を見る会

夏休み期間中、毎週土曜日に開催します。参加は自由ですので、都合の良い日にご参加ください。

日時： 8月2日・9日・16日  
・23日・30日の午後7時～8時

### ●みんなで調べよう 「平塚のセミ」

ぬけがらを集めて、平塚の都市化がセミにどんな影響を与えているか調べます。

## 9月の行事

### 体験学習シリーズ45

#### 草木で染めよう「木の葉を使って」

日曜コース 9月7日（日） 10時～3時

平日コース 9月9日（火） 10時～3時

場所：博物館科学教室

材料費：1人200円

申し込み：8月31日までに、往復ハガキに、希望のコースを明記して。応募多数の時は抽選で各20名 小学校3年生以下は父兄同伴。

### ☆自然観察会

#### 「大山の秋をたずねて」

9月21日（日） 午前8時～4時

コース 下社－大山山頂－広沢寺温泉（やや健脚向け）

申し込み：9月10日までに、往復ハガキで。多数の場合は抽選で30名。小学校3年生以下は父兄同伴。

### ☆「星を見る会」「月を見よう」

月令11の月を観察します。

日時： 9月20日（土）午後6時～8時。

申し込み： 9月10日までに往復ハガキで。

多数の場合は抽選で30名。

# 平塚のアシナガバチ

特別展「街の生きものたち」より

## ●アシナガバチの生活

軒下によく巣を作るアシナガバチは、数多いハチの種類の中でも、もっとも身近なハチといえるでしょう。後足をだらんと下げて、草や木の間を飛んでいる姿もよく目につきます。さて、彼らアシナガバチはどんな一年を送っているのでしょうか。

春になると、冬の間を物影にひそんですごしていた女王蜂が現われ、一匹で巣を作り始めます。女王は巣に卵をうみ、かえった幼虫には餌を選び巣もだんだん大きくしていきます。やがてかえった娘蜂は働き蜂となり、生まれた巣にとどまって巣作り、餌運びなどの仕事につくようになります。その頃には女王蜂はもっぱら卵をうむだけを仕事とするようになり、巣は働き蜂の力でどんどん大きくなっていきます。フタモンアシナガバチでは巣房（巣の六角形の部屋）の数が500をこえることも珍しくありません。

アシナガバチの餌は主にチョウヤガの幼虫で、とらえた餌はその場で引きさき「肉だんご」の形にして巣に運びます。

秋になると、巣からは新しい女王蜂と雄蜂が生まれ、一年間の活動も終わりになります。巣は捨てられ、新しい女王蜂だけが次の年に備えて、冬越しに入ります。

## ●都市化とアシナガバチ

普通、アシナガバチと呼ばれているハチには、多くの種類が含まれていますが、本州にすんでいるのは、セグロ・フタモン・キボシ・ヤマト・キ・コの6種類です。これらの中には、樹木の多い環境を好むものと、開けた環境を好むものがあり、都市化が進んで緑が少なくなると、すんでいるアシナガバチの種類が少なくなると考えられます。神戸市などで調査された例では、山すそでは6種類全部が見られるのに対し、都市部ではセグロ・フタモンの2種類だけになり、さらに工場地帯では1種類も見られない地域もありました。つまりアシナガバチが何種類見られるかということが、その地域の緑の指標になるというわけです。

フタモンアシナガバチ



また、アシナガバチの巣は、先の話からもわかるように、1匹の女王蜂から生まれた家族によって1年間の間に作られるものです。緑が多く、餌になる昆虫が豊富であれば、それだけ巣も大きく育つと考えることができるでしょう。巣の大きさも、別の意味での緑の指標と考えられるのです。

## ●平塚では……

以上のようなことから、平塚のアシナガバチについて調べ、都市化の進み具合を知りたいと考え、昨年冬、新聞や広報を通して呼びかけ、アシナガバチの巣を集めてみました。200名以上の方の御協力があり、大小とりまぜ約600個の巣が集まりました。

集まった巣を種類わけし、まゆのあとがある（働き蜂が巣立った）巣だけを選んで、巣房の数を数え、地図に現わしたのが、別図です。この図からどんなことがわかるでしょう。

まず市内で見つかったのはキボシアシナガバチを除く5種類で、またヤマトアシナガバチは旭地区でたった1個見つかっただけでした。またキアシナガバチは岡崎と金目で多く見つかり、市街地では少数でした。残りの3種類セグロ・フタモン・コは広く分布していることがわかりました。またセグロは、緑の多い住宅地に多く、一番市街化の進んだ所にも住んでいるのはフタモンと考えられました。

巣の大きさについては、不十分なことしかわかりませんでした。土沢地区から届けられたセグロの巣は、300個以上の巣房のものが見られ、環境のよい所では巣が大きくなる一つの証拠といえるでしょう。

今回の調査では、特に西部丘陵地から十分な資料が集まらなかったため、市内の分布をはっきり説明できるところまではいきませんでした。今冬、もう一度調べて、まとめをしてみるつもりです。皆さんも今からハチの巣に気をつけておいて、冬になり親蜂がいなくなったら、博物館に届けてください。

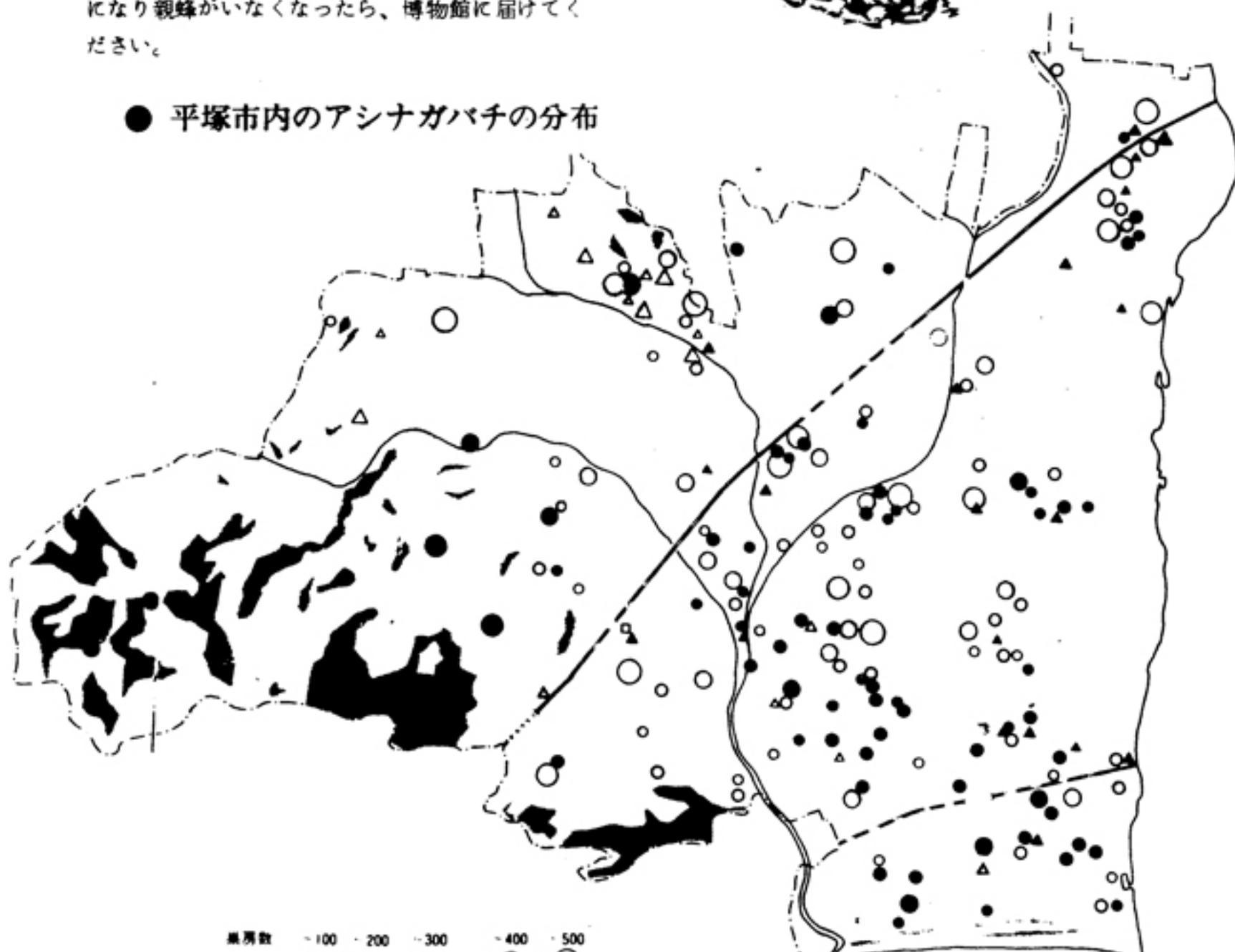
最後になりましたが、御協力をいただいた皆さん、本当にありがとうございました。なお集まった資料の一部は 現在開催中の夏期特別展「街の生きものたち」に展示しています。どうぞご覧ください。

ヤマトアシナガバチ

巣柄細い



● 平塚市内のアシナガバチの分布



巣房数	~100	~200	~300	~400	~500
フタモンアシナガバチ	○	○	○	○	○
セグロアシナガバチ	●	●	●	●	●
キアシナガバチ	△	△	△		
コアシナガバチ	▲	▲	▲		
ヤマトアシナガバチ	□				